

## 令和5年度 稲沢市地域自立支援協議会 第1回こども部会 議事要旨

【日 時】令和5年6月1日（木）午後2時～午後3時35分

【場 所】稲沢市役所 第1分庁舎 2階 第3会議室

【出席者】こども部会委員7人 事務局6人

【欠席者】なし

あいさつ（事務局、部会長）

委員から自己紹介

【議 事】

1 協議事項

（1）検討課題と今年度の取り組みについて

1) 医ケア児に関すること（医療的ケア児支援ネットワーク会議の開催）

部会長 会議は関係者約30名が参加。コーディネーターから出た地域の課題を協議した。昨年度は相談フローを作成、当事者等への周知等を実施。災害についても今後検討していく。看護師の配置が始まり、現状等は。

委員A 市内2つの保育園に病院勤務経験のある看護師を配置。ガイドラインを作り、医師の指示書に従って実施。対象児は3人。1人目は1歳児、経管栄養実施。保育園と児童発達支援事業所を併用。順調に保育園での生活ができている。2人目は3歳児、経管栄養実施。3人目は3歳児、洗腸が必要で、現在は、ガスが溜まっているか聴診器での確認や保護者による処置後に登園する状況。保育園ではケアが不要だが、様子を見つつ受け入れしている。

食事での栄養摂取を少しづつ練習している。本人の意欲もあり、同学年クラスに入った。集団で保育していくメリットは現場も感じている。

医療的ケア児の受入れは初めてであり、看護師も1つの園に複数で配置しているわけではないので、障害児保育の3人に1人の配置に加え、短時間勤務の保育士をプラスで配置して手厚くしている。

委員B 学校は、気管切開して痰吸引をしている子に看護師資格を持つ特別支援教育支援員を配置。その子は成長してケアが少なくなってきた。今後、校外活動等について、来年度は予算を追加予定。来年度入学予定者も人工呼吸器の利用が少なくなっている、看護師が対応できれば保護者が仕事を始められる可能性がある。今後、医療的ケア児が増えた時に、看護師が確保できるかという心配はある。

部会長 学校等の負担が過重とならないような仕組みを考えられると良い。また、災害についても協議していかなければいけない。初めて参加された委員の御意見は。

委員C 医療的ケア児に実際関わってはいないが、ネットワーク会議へ参加したい。

委員D 稲沢市の実情を把握するために、ネットワーク会議へ参加したい。

委員E 保育園等では、「看護師」としての配置か。看護師を集める最終的な課題は、給料。

委員 A 保育園では、元々は保育士並みだったが、市民病院並みの時給を確保できた。

委員 B 学校も保育園と同じ程度。看護師免許あり、短時間で働くことがポイント。

委員 E 成長とともに必要なケアが変わっていったりする。必要ではなくなった時にどうするのか、配属されたものの、やることがなくなったとか、今後の課題かと思う。

部会長 ネットワーク会議は誰もが市内で通園通学できる体制、コーディネーターが活動できる体制、災害に備えた体制の3つの体制作りを柱に ALL 稲沢を目指して取り組んでいく。今回から新たな委員にもご参加いただき一歩 ALL 稲沢に近づけた。

## 2) 障害児等に係る療育システム等に関すること

### ・関係機関の連携強化、意識統一等

部会長 個別支援会議の3事例では、発達障害等で学校に通えない状況であり、運営会議でも福祉と教育が連携して支援できると良いと意見があるので、連携するためにまず互いに立場の共有も始めていきたい。学校教育の立場として現状や課題は。

委員 B 不登校については、学校としても課題に捉えている。資料3は、いじめ不登校対策委員会が作成、全家庭に配布。前回はいじめがメインだったが、稲沢市教育委員会主導で不登校に特化した。裏面は相談先一覧。不登校は、R2は243名（中学171小72）、R3は279名（中185小94）。R4は約300名となる見通し。ここには病気の子は含まれないので実際には350名程度。コロナの感染予防で出席停止が選択できたときは、さらに多かった。資料3の赤い線は欠席日数の目安で、欠席日数が増えている時は、保護者の不安を取り除くために相談機関に繋いでいくしかない。ある程度本人がやってみようと思い始めた時にうまく外と繋いでいく。やってみようと思うまでの期間が長くなるほど復帰期間も同じように長くなる。ホームフレンド制度やフリースクールなどの連携も今年実施。学びの場に関しては色々工夫が必要。他にブリッジルーム等紹介してほしい。不登校を防ぐために学校ができるのは、学校が楽しいと思ってもらうこと。それには分かりやすい授業と、学校で仲間づくりができるこの2点しかない。モデルを2校作り、その2点ができているかといったアンケートをとって結果をもとにに対応することを検討中。また、学校以外でできることのほうが多いことを資料3で伝えたい。また、先生にも発達障害、例えばLD等、黙って座っている子が苦しんでいることを理解してほしい。そういうことをもう少し早い段階で何もない段階で目を向けられる体制づくりを学校だけではどうにもならないので連携していきたい。

部会長 今後、不登校に関しての協議は任期2年間、続けていくことになる。

委員 F 3事例の中に、目標が「目を合わせる」とあったが、誰が立てる目標なのか。

事務局 先生の目標。入学から一度も話をしたことがないため、初めの目標とした。

委員 F 発達障害の子は目を合わせるのが恐怖かと思うので、本人が目を合わせようになりたいと言ったなら良いが、一方的な目標になっていないと良いと思う。

部会長 他の会議で行き詰ったことなどあったら、相談させていただけるとよいと思う。

・稻沢市サポートブックについて

部会長 昨年度、強化月間の3,4月は進級進学の時期でもあるので、ふれあい通信での周知や活用の動画も作成した。運営会議で、保護者が書くことは難しいと意見があった。支援者や関係者が子どもを把握するためのアセスメント用紙として記入してはどうかという意見もあったので、活用方法の協議を継続したい。相談支援事業所連絡会と連携を図り、調整のうえ共に進めていくことになると思う。

委員A 事業所、学校、保育園も、それぞれが計画をたてているが、ずれていますことが多い。お互いが活用し支援を繋ぐためにこのツールが役に立つことを保護者、支援者が理解し必ず使うような仕組みが必要。書く力がない保護者も増えているが、せめて学校や保育園での取組みを事業所に伝えられたらもう少し支援が繋がる。

委員D 他の地域でもサポートブックが活用されていないことが課題だとよく聞く。保護者からは、どう活用されるかわからないと聞く。サポートブックがあるから活用しようというのが狙いではないと思う。支援を繋ぐという役割を果たしていくのが大事。保護者が書くのが負担だからなのか、あるものをどうしたらいいのかわからないのか。紙媒体は少なくなってきたので、保護者が書いて次の機関に持っていくことが可能なのか。個別に計画を作成し、そこに保護者が入っていくことのほうが、しっかり繋がっていけるのか、あるいはコーディネーターのような核になる方がいて、人でつながっていく形がいいか。Youtubeも視聴したが、書こうと思わない保護者のかたが、支援が必要なのかなと思う。

3) 児童発達支援センターに関するこ

部会長 今まで各団体への聞き取りやヒアリング等も進めていただいたうえで、この基本計画をされているので、9月と12月に検討を進めていけたらいいなと思っている。

委員E 先ほど防災の話が出たが、防災時の施設として対応できることも必要では。

事務局 サービス名は、「児童発達支援センター」となっているが、対象年齢が比較的低い年齢に捉えられてしまうというご意見があり、名称の「児童」を削除する等、意見を聞かせていただけるとありがたい。

部会長 次回の検討事項とする。

2 その他

1) 清須市医療的ケア児者・キックオフシンポジウムについて案内

2) 尾張西部圏域での医療的ケア児に関するシンポジウムについて報告

部会長 「子育て、教育は稻沢で」と稻沢市が宣言している。その稻沢市が設置したこども部会ということを胸に、意見や協議を深めていきたい。